

各小委員会開催報告

牧野管理小委員会

検討事項	牧野の管理と利用の継続による草原環境の維持に関する実施計画とその実施状況等
小委員会 の内容	野焼き・輪地切りボランティアなどの様々な主体による支援や輪地切り省力化事業による野草地保全の取り組みなど、牧野組合等の地元組織により継続されてきた草原維持を続けるための仕組みづくりについて議論を行う。 牧野組合等の地元組織主体による草原維持の仕組みづくりと様々な主体の協力により、大きな面積を占める牧野組合等の管理する草原の保全につなげることを目指す。
委員	24名 委員長：高橋佳孝、委員長代理：笹原瑞穂
事務局	財団法人阿蘇グリーンストック

牧野管理小委員会委員名簿

(団体・法人)

	分類	委員名	代表者名
1	区・牧野組合等	跡ヶ瀬牧野組合	代表理事組合長 江入幸和
2	区・牧野組合等	木落牧野組合(中通木落原野管理委員会)	組合長 笹原瑞穂
3	区・牧野組合等	小堀牧野組合	組合長 中村辰司
4	区・牧野組合等	町古閑牧野組合	組合長 市原啓吉
5	区・牧野組合等	西原牧野組合	組合長 井 廣明
6	区・牧野組合等	池ノ窪牧野組合	組合長 岡村宗十四
7	区・牧野組合等	小森原野組合	組合長 須藤 睿
8	区・牧野組合等	柳谷牧野組合	組合長 田上満則
9	地元 NPO/NGO 等	NPO 法人阿蘇エコファーマーズセンター	理事長 木之内均
10	地元 NPO/NGO 等	財団法人阿蘇グリーンストック	専務理事 山内康二
11	行政	環境省九州地方環境事務所	所長 関山和敏
12	行政	熊本県阿蘇地域振興局農業振興課	課長 西山英樹
13	行政	阿蘇市	市長 佐藤義興
14	関係機関	熊本県阿蘇家畜保健衛生所	所長 大田黒光好
15	関係機関	熊本県畜産農業協同組合阿蘇支所	支所担当理事 中川利美
16	関係機関	熊本県農業研究センター草地畜産研究所	所長 高尾英己
17	その他団体	株式会社メッツ研究所	代表取締役 枝松克巳

(個人)

	分類	委員名	所属団体
18	ボランティア	岩本和也	財団法人阿蘇グリーンストック
19	ボランティア	舩尾義登	財団法人阿蘇グリーンストック
20	ボランティア	松永 鎮	財団法人阿蘇グリーンストック
21	学識・研究者	鈴木康夫	九州東海大学工学部リモートセンシング学科
22	学識・研究者	小路 敦	独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構九州沖縄農業研究センター
23	学識・研究者	高橋佳孝	独立行政法人近畿中国四国農業研究センター、宮崎大学農学部、NPO 法人緑と水の連絡会議
24	学識・研究者	矢部光保	九州大学大学院農学研究院 農業資源経済学分野

第1回牧野管理小委員会開催概要

開催日時：平成18年3月2日（木）10:00～12:00

開催場所：阿蘇市農村環境改善センター

出席者：委員16名、事務局3名、傍聴者25名

議事：

- ・ 牧野管理小委員会設置の経緯及び委員紹介
- ・ 委員長及び委員長代理の選出について
- ・ 牧野管理小委員会の検討の進め方について（意見交換）
- ・ 今後のスケジュールについて
- ・

< 議事概要 >

牧野利用の現状について（各牧野組合から）

放牧が少ないなど有効に利用されていない

- ・ 預託受け入れで放牧頭数を増やす取り組みも行われているが、有畜農家が減って放牧頭数が全体的に減少。
- ・ 野草資源の有効利用ができれば刈り干しなども考えられるが、傾斜地であること、担い手の高齢化が進んでおり、草刈りが難しい。
- ・ 放牧の減少、野草利用が少ないなか、ボランティアの力も借りながら野焼きだけで草原を維持している現状がある。

利用減少のなかで入会権者も減少

- ・ 放牧や野草利用が減少し、組合員ばなれも生じている。入会権者であることのなんらかのメリットが必要。

利用と管理について

利用はしていないが野焼きには参加

- ・ 今は入会権者全員や地区住民で野焼きを行っているが、無畜農家などは原野管理のメリットがないことから、今後の出役の継続に不安。

管理にかかわるボランティア

- ・ ボランティアの役割は評価されている。しかし、今後必要とされる見込みに対して、十分な人数が確保されているとはいえず、対応は難しい。

利用と管理との関係を整理

- ・ 草資源の有効利用ができれば、管理のあり方も変わってくる。利用と管理の関係を整理していく必要がある。

野焼き・輪地切りを続けていくうえで

ボランティア

- ・ 輪地切りについては、ボランティアの力は有効。ただし、野焼きの中心は地元でないと火入れができない。

畜産振興

- ・ 預託放牧、広域放牧を推進する必要がある。

エネルギー利用

- ・ 阿蘇市では、バイオマス発電プラント建設によって野草のエネルギー利用を予定。
- ・ 放牧だと牧柵管理等が必要だが、エネルギー利用だとその手間がいない。

地元ニーズの把握のためのワークショップ

草原を組合や集落の宝として

- ・ 地元が草原を貴重な宝としてとらえられることが大事。入会権者や集落のみんなが草原にかかわる仕組みが必要。
- ・ 木落牧野の「野草地保全実施計画策定」に地元がかかわるなかで、地元の人が植物や地名などを通じて草原を再認識している。このような動きを大切にしたい。

地元ワークショップの開催

- ・ 地元の人が草原の存在意義を知り、自分たちの財産だと感じるような地元ワークショップを開催していく。
- ・ いくつかの典型的牧野を抽出し、ワークショップを行い、課題の整理や地元の草原への意識の高まりを図っていく。



生物多様性小委員会

検討事項	生物多様性保全上重要な草原の保全・再生に関する実施計画とその実施状況等
小委員会の内容	湿地をはじめとする特に希少な動植物が生育・生息する場所の草原環境の再生や維持管理などについて議論を行う。 阿蘇の希少な動植物の保全を図り、阿蘇特有の貴重な生物多様性の保全につなげることを目指す。
委員	18名 委員長：今江正知、委員長代理：寺崎昭典
事務局	環境省九州地方環境事務所

生物多様性小委員会委員名簿

(団体・法人)

	分類	委員名	代表者氏名
1	区・牧野組合等	町古閑牧野組合	組合長 市原啓吉
2	地元 NPO/NGO 等	NPO 法人阿蘇花野協会	理事長 潮谷愛一
3	地元 NPO/NGO 等	財団法人自然公園財団阿蘇支部	阿蘇支部長 紫垣英道
4	行政	環境省九州地方環境事務所	所長 関山和敏
5	行政	熊本県環境生活部自然保護課	自然保護課長 井手澄男
6	行政	熊本県阿蘇地域振興局林務課	課長 古閑清隆
7	その他団体	株式会社九州自然環境研究所	代表取締役 中園敏之
8	その他団体	有限会社野外教育研究所 I O E	所長 山口久臣
9	その他団体	NPO 法人地域自然情報ネットワーク	理事長 小泉武栄
10	その他団体	株式会社メッツ研究所	代表取締役 枝松克巳

(個人)

	分類	委員名	所属団体
11	学識・研究者	今江正知	崇城大学
12	学識・研究者	佐藤千芳	(有)熊本植物研究所
13	学識・研究者	小路 敦	独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構九州沖縄農業研究センター
14	学識・研究者	寺崎昭典	寺崎動植物調査研究所
15	学識・研究者	高橋佳孝	独立行政法人近畿中国四国農業研究センター、宮崎大学農学部、NPO 法人緑と水の連絡会議
16	学識・研究者	西脇亜也	宮崎大学農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センター
17	その他	宇野公子	
18	その他	篠田徹幸	

第1回生物多様性小委員会開催概要

開催日時：平成18年3月15日（水）9:30～12:00

開催場所：阿蘇市農村環境改善センター

出席者：委員13名、事務局7名

議事

- ・ 小委員会設置の経緯及び委員紹介
- ・ 委員長及び委員長代理の選出
- ・ 生物多様性小委員会の検討の進め方について

< 議事概要 >

生物多様性について

- ・ 「生物多様性」という概念は、人によって認識が異なる。小委員会で議論を繰り返すことによって、ある程度整理されたものを協議会にあげていきたい。
- ・ 多様性には、階層性がある。日本の中での阿蘇の重要性を示すような全国レベル、阿蘇での生物の分布の特徴を示すような地域レベル、個体や遺伝的変異を対象とするような局所的なレベルなどである。検討にあたっては、対象とするスケールを明確にしたうえで議論していく必要がある。
- ・ 草原は、立地条件や管理の仕方によって様々なタイプがあり、それぞれ生育する植物が異なる。阿蘇の生物多様性は、このような様々な環境が存在していることによって成り立っているという認識が必要。

検討の方向性について

- ・ 生物多様性を維持することを一部の人たちだけの努力に期待することは困難。国民全体でその責任を負うべきという事をみんなが理解しなければならない。
- ・ 国民負担を求めて行くには、野草地の公益的機能を評価する仕組みが必要で、その裏づけとなる科学的データを整理して発信する必要がある。
- ・ 多様性の維持のためには、次世代の担い手の確保が不可欠。後継者問題は他の小委員会でも大きな問題で、他の小委員会と連携しながら進めていきたい。
- ・ 生物多様性保全の観点から、ふさわしい農業のありかたを提案できないか。
- ・ 土地利用を考える中で、草原の多様性はほとんど考慮されてない。議論をすすめる基礎として阿蘇の植生・土地利用の現況をとらえる必要がある。
- ・ 稀少種に着目するとかえって盗掘を招き、絶滅を誘発しかねない。多様性を一般に評価する指標としては、阿蘇に普遍的かつ指標となる種が望ましい。
- ・ 生息適地などの環境情報を絵にして検討することで、保全すべきところが見えてくる。
- ・ 多様性保全を間違っ理解すると、本来はその場所に生育していなかった種を植栽しようという動きに繋がりがかねない。ハナシノブで遺伝子汚染がおきた。
- ・

情報公開について

- ・ 生物多様性を議論するにあたって、希少種の分布情報が話題になることがある。このような情報が安易に公表されると、盗掘を誘発することになりかねない。希少種の情報は、議論をするにあたっての必要性に鑑み、場所が特定できない程度に範囲を広げて提供するというような配慮が必要。自然にもプライバシーがあり、それを侵すべきではない。

草原環境学習小委員会

検討事項	草原環境学習の推進と草原環境の認識の向上に関する実施計画とその実施状況等
小委員会の内容	阿蘇内外の人たちに対する草原環境学習及び阿蘇の草原環境の認識を向上させるための手法などについて議論を行う。 阿蘇内外の人々の草原環境の認識を向上させることにより、草原環境保全への参画を促すとともに、農畜産業など草原環境保全の後継者の確保につなげることを目指す。
委員	18名 委員長：池辺伸一郎、委員長代理：鈴木康夫
事務局	環境省九州地方環境事務所

草原環境学習小委員会委員名簿

(団体・法人)

	分類	委員名	代表者名
1	区・牧野組合等	小堀牧野組合	組合長 中村辰司
2	区・牧野組合等	町古閑牧野組合	組合長 市原啓吉
3	地元 NPO/NGO 等	阿蘇地区パークボランティアの会	会長 上島敬次
4	地元 NPO/NGO 等	財団法人阿蘇グリーンストック	専務理事 山内康二
5	地元 NPO/NGO 等	財団法人阿蘇地域振興デザインセンター	理事長 宮崎暢俊
6	地元 NPO/NGO 等	なみの高原やすらぎ交流館	館長 市原惣士
7	行政	環境省九州地方環境事務所	所長 関山和敏
8	行政	熊本県環境生活部自然保護課	自然保護課長 井手澄男
9	行政	南阿蘇村	村長 今村輝昭
10	関係機関	独立行政法人国立青年の家 国立阿蘇青年の家	所長 竹身良文
11	その他団体	有限会社野外教育研究所 I O E	所長 山口久臣

(個人)

	分類	委員名	所属団体
12	地元有識者	池辺伸一郎	阿蘇火山博物館、NPO 法人阿蘇ミュージアム
13	地元有識者	梶原宏之	阿蘇たにびと博物館
14	学識・研究者	鈴木康夫	九州東海大学工学部リモートセンシング学科
15	学識・研究者	寺崎昭典	寺崎動植物調査研究所
16	学識・研究者	高橋佳孝	独立行政法人近畿中国四国農業研究センター、宮崎大学農学部、NPO 法人緑と水の連絡会議
17	学識・研究者	矢部光保	九州大学大学院農学研究院 農業資源経済学分野
18	その他	篠田徹幸	

第1回草原環境学習小委員会開催概要

開催日時：平成18年2月23日（木）9:30～12:00

開催場所：ホテルサンクラウン大阿蘇 会議室

出席者：委員18名、事務局5名、傍聴1名

議事

- ・ 小委員会の設立経緯及び委員の紹介
- ・ 委員長及び委員長代理選任
- ・ 草原環境学習に関する活動の現状と今後の計画
- ・ 阿蘇草原再生と草原環境学習の基本的考え方について
- ・ 第2回協議会への報告について

< 議事概要 >

草原環境学習の基本的な考え方

阿蘇の草原の素晴らしさや、成り立ちや現状などを、幅広い人々に伝える

- ・ 草原の成り立ちからこれまで維持されてきたことまでを、多くの人に伝えていくことが必要。草原環境学習の対象は、地元の人々や子供たち、地域外の人々、観光客など幅広く、対象者によってどういうアプローチの仕方があるのかということがポイントになる。
- ・ 「人の暮らしとのなかで作られた草原」はすべてに共通するテーマ。千年引き継いできたものを、今後の千年も引き継ぐためには、幅広く情報を発信して学習していくことが大切。

地元の人々や子供たちに阿蘇の草原を再確認してもらう

- ・ 子供たちは草原のよさを知らない。地元の子どもたちに、地域の自然のすばらしさを知ってもらいたい。
- ・ 教育と生物多様性の保全はセット。雑草とされているものが、実は希少植物であることが多く、地元の人が植物に関する正確な知識を持ち、阿蘇の自然の豊かさを理解してもらいたい。そして、畜産や農業形態を、形を変えながらも元の豊かな草原に戻していきたい。

観光客をはじめ地域外の人々に阿蘇の姿を伝える

- ・ 阿蘇を訪れる多くの観光客に、現場の人々の姿、阿蘇の姿を伝えていきたい。
- ・ 多くの方々に草原のことを知ってもらい阿蘇のファンになってもらい、場合によっては活動をしていただく。

「現場で学ぶ」ことが重要

- ・ 草原を見るために人をできるだけ連れ出すということが、いちばんのテーマ。

長期的には「後継者の確保」につなげていくための環境学習

- ・ 草原を管理してきた人々の暮らしと草原の管理が離れてきており、今後、草原を管理していく人、担っていく人たちをどうやって生み出すかが課題。色々なタイプの担い手をつくっていく手法や情報を発信していくのが大切で、そのための環境学習だと思う。
- ・ 地元の人々や子どもたちが阿蘇の草原の素晴らしさや大事さを再確認し、長い目で担い手の確保につなげていく。

取り組み - やっていききたいこと

子どもたちの草原体験のために現場を提供

- 子どもたちが草原体験を通じて、草原を維持するために農家の人々がどんな苦勞をしているか知ってもらうため、牧野組合としては、現場をお貸ししたい。

多様な対象に応じて、阿蘇の草原を発信していく

- 次世代に草原を引き継いでいくために、現場が直面する問題を発信していく。
- 草原と草原に関連する環境をどういう言葉で発信するかがポイント。

活動に関するコーディネート

- 阿蘇に来る人々と牧野組合など地元の方との、需要と供給を調整し、組合が人々を受け入れることによる問題や悩み（情報）を一元化する。
- 環境学習のセンターを、小委員会で運営することはできないか。

プログラムの開発

- 牧野の人や関係者が集まって草原学習のカリキュラムを作り、次世代に引き継いでいくことが大切。自分たちで発信していくことが大切。
- 後継者の育成を前提とするなかで、草原環境を知ってもらうための教材、学習の場をどう作っていくかがポイントになる。
- ツアーなどにおいて地元牧野組合員による案内を期待。
- 牧野の人が伝えたい思いをプログラムの中に取り入れる。

人材確保、育成

- 県の指導員など人材の共有化、現場でのレベルアップ研修。
- 環境学習、エコツーリズム、体験学習などいろいろな分野を統括する人材バンク、コーディネート機能。
- 阿蘇に興味を持っている人々の力の活用。

小委員会としてのアクションを起こす

- 小委員会として何かアクションを起こして欲しい。草原環境学習小委員会としての目標をもち、成果ができればいい。

取り組みの進め方について

地元との連携

- 牧野組合、地元の人、地元子どもたちにどうやって関わっていくかが一番の課題。
- 「現場で学ぶ」ということを進めるためには、現場に迷惑をかけないということが大事。牧野にしわよせがいかないように調整を図っていかなければならない。
- 組合として場を提供するためには労力がかかるので、それに見合う代償があれば組合員の協力も得やすい。

学校との連携

- 学校の授業に取り入れるため、学習指導要領の中にどう位置づけられるか。

さまざまな活動との連携

- デザインセンターが立ち上げた阿蘇地方のツーリズム協議会などとの連携。

野草資源小委員会

検討事項	野草地採草の作業の継続・促進と野草資源の利用・流通に関する実施計画とその実施状況等
小委員会の内容	持続可能な社会の形成の観点から、野草資源の有効活用について議論を行う。野草の有効活用のためには、採草・集草作業の効率化、運搬・保管方法の検討、作業の担い手の育成、流通システムの構築、ブランド化・高付加価値製品の開発など、野草の利用が社会的・経済的に成り立つ仕組みをつくることが大切である。 野草資源の利用・流通が、採草地などの草原環境の維持・保全につながる仕組みを構築することを目指す。
委員	17名 委員長：****、委員長代理：****
事務局	NPO 法人九州バイオマスフォーラム

草資源小委員会委員名簿

(団体・法人)

	分類	委員名	代表者氏名
1	区・牧野組合等	跡ヶ瀬牧野組合	代表理事組合長 江入幸和
2	区・牧野組合等	町古閑牧野組合	組合長 市原啓吉
3	地元 NPO/NGO 等	NPO 法人阿蘇エコファーマーズセンター	理事長 木之内均
4	地元 NPO/NGO 等	NPO 法人九州バイオマスフォーラム	理事長 大津愛梨
5	地元 NPO/NGO 等	阿蘇草原再生シール生産者の会	会長 市原啓吉
6	行政	環境省九州地方環境事務所	所長 関山和敏
7	行政	農林水産省九州農政局	農政局長 南部明弘
8	行政	熊本県阿蘇地域振興局農林部農業普及指導課	課長 木庭 智
9	行政	阿蘇市	市長 佐藤義興
10	関係機関	熊本県阿蘇家畜保健衛生所	所長 大田黒光好
11	その他団体	株式会社メッツ研究所	代表取締役 枝松克巳

(個人)

	分類	委員名	所属団体
12	学識・研究者	栲田 聖孝	九州東海大学、熊本市環境審議会、江津湖研究会
13	学識・研究者	鈴木康夫	九州東海大学工学部リモートセンシング学科
14	学識・研究者	高橋佳孝	独立行政法人近畿中国四国農業研究センター、宮崎大学農学部、NPO 法人緑と水の連絡会議
15	学識・研究者	西脇亜也	宮崎大学農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センター
16	学識・研究者	矢部光保	九州大学大学院農学研究院 農業資源経済学分野
17	その他	篠田徹幸	

第 1 回野草資源小委員会開催概要

開催日時：平成 18 年 3 月 22 日（木）10:00～12:00

開催場所：阿蘇いこいの村会議室

出席者：* * 名

議事：

< 議事概要 >